

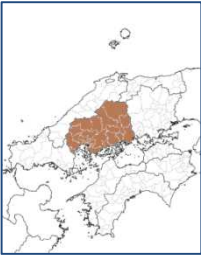
「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第4回選定) 応募団体 一覧 (広島県)

| No. | 選定地区 | 参加証コード* | 市町村 | 団体名 | 該当する取り組み | | |
|-----|------|---------|-------|-----------------------------|------------|------------|------------|
| ① | | 2017401 | 三次市 | 有限会社 平田観光農園 | 国内観光 | 6次産業化 | 子ども(教育・体験) |
| ② | | 2017402 | 世羅町 | 世羅高原6次産業ネットワーク | 農泊 | 6次産業化 | 女性の活躍 |
| ③ | | 2017403 | 福山市 | 特定非営利活動法人 あいあい広場 | 子ども(教育・体験) | 医療・福祉 | — |
| ④ | | 2017404 | 安芸太田町 | 安芸太田町ヘルスツーリズム推進協議会 | 農泊 | 自然・景観 | 国内観光 |
| ⑤ | | 2017405 | 三次市 | 石原集落協定組合 | 定住・移住 | 女性の活躍 | 鳥獣被害防止 |
| ⑥ | | 2017406 | 三次市 | 川西自治連合会 | 農林業体験 | 地産地消 | — |
| ⑦ | | 2017407 | 竹原市 | 竹原ご当地グルメ推進協議会 | 「食」の提供・活用 | 6次産業化 | 地産地消 |
| ⑧ | | 2017408 | 広島市 | NPO法人いきいき農業応援し隊 | 農林業体験 | 地産地消 | — |
| ⑨ | | 2017409 | 広島市 | 里山あーと村運営協議会 | 自然・景観 | 「食」の提供・活用 | 6次産業化 |
| ⑩ | | 2017410 | 三原市 | 三原市漁業協同組合 | 「食」の提供・活用 | 子ども(教育・体験) | 地産地消 |
| ⑪ | | 2017411 | 大崎上島町 | 大崎上島海生体験交流協議会 | 伝統・継承 | 子ども(教育・体験) | 地産地消 |
| ⑫ | | 2017412 | 福山市 | 福山市土地改良区 | 子ども(教育・体験) | 地産地消 | 都市農業 |
| ⑬ | | 2017413 | 北広島町 | 鳴滝集落活動組織 | 伝統・継承 | 6次産業化 | 鳥獣被害防止 |
| ⑭ | | 2017414 | 広島市 | 農事組合法人よしやま | 企業 | 雇用 | — |
| ⑮ | | 2017415 | 江田島市 | (社団)江田島市シルバー人材センター 竹炭工房おおがき | 自然・景観 | 国内観光 | 高齢者の活躍 |
| ⑯ | | 2017416 | 福山市 | 福山市中央区食生活改善推進員協議会 | 子ども(教育・体験) | 地産地消 | 女性の活躍 |
| ⑰ | | 2017417 | 廿日市市 | 吉和げんき村 | 自然・景観 | 定住・移住 | 地域復興 |
| ⑱ | | 2017418 | 東広島市 | 農事組合法人シバザクラの里乃美 | 自然・景観 | 「食」の提供・活用 | — |
| ⑲ | | 2017419 | 東広島市 | 農事組合法人ファーム西田口 | 雇用 | 地産地消 | 女性の活躍 |
| ⑳ | | 2017420 | 東広島市 | 自治組織「共和の郷・おだ」 | 伝統・継承 | 6次産業化 | 女性の活躍 |
| ㉑ | | 2017421 | 東広島市 | 住民自治協議会福に富む郷竹仁 | 農泊 | 地産地消 | 定住・移住 |

※ 参加証コードは、中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定委員会が応募団体に発行する「参加証」に記載される番号です。

※ 参加証コードは、応募受付順で付与しております。

応募団体位置図（広島県）



ひらた

有限会社 平田観光農園

～周年で楽しめる日本最大級の果樹観光農園～



スタッフ集合



イチコトでのくだもの缶詰作り教室

経緯

- 外食化が進み、産地や農山漁村のことが分からない人たちも。果物を通じて、農業の魅力や農村の良さを実感してほしいとの思い。
- 幅広い年齢層の研修・視察を受け入れ、里山文化を次世代へ継承し、そこから移住・定住へつなげたい。

取組内容

- 果物狩りだけでなく、今年、体験施設「イチコト」をオープンし、果物を中心としたいろいろな体験教室を実施。
- テイクアウトのカフェ「noqoo deli」では地元のジビエ肉を使ったホットドックや農園の果物を使ったスイーツを提供。
- 中学生から社会人まで、年間2,000名の研修・視察を受け入れ。

活動の効果

- これまでの取組や思いが地域全体に広がり、様々な観光農業施設が増えた。
- 三次市の入込観光客が、昭和60年(法人設立当時)54万人→平成28年339万人へ。
- 直近10年のI・J・Uターンの転入者が38名(18戸)と過疎化の中、注目の地域に。
- 当農園で研修を終えた若者が、新潟、富山など8府県で独立を果たしている。

応募団体からのアピール・メッセージ

より「体験」「実感」といったテーマで都市の方々と交流し、一人でも多く田舎暮らしがしたいと思ってもらえるよう、新しい体験会社「イチコト」を立ち上げました。また、耕作放棄されていた園芸ハウスを復活し、観光いちご園として再生する取組も行います。

広島県三次市上田町1740-3 Tel:0824-69-2346


 せらこうげん
世羅高原6次産業ネットワーク

～日本一大きく美しく豊かな世羅高原～



農家民宿体験ツアーの実施



加工施設での特産品開発

経 緯

- 地域の主産業である農業を基幹とした豊かな地域づくりを目的として、全国でも先駆けとなる6次産業化に取り組む。
- 平成11年、世羅高原6次産業ネットワーク設立。農家連携の構築により、農家所得の向上と就業機会を拡大。

取組内容

- 「フルーツとフラワーの町」としてのブランド化と地産地消の取組。
- 特産品のお米、梨・葡萄など多彩な果物を使った特産品を開発・販売。
- 長期滞在型グリーン・ツーリズムの取組。農家民宿と体験プログラムを組み合わせたツアーの提供。
- 研修や大型イベントを通じた会員間の交流と次世代の担い手育成。

活動の効果

- 農家の規模・世代を超えた横連携により、新規加工商品が300品以上となり、農家所得の増加に繋がった。（直売部門の売上は、8.4億円（H9年度）から16億円（H28年度）に増加。）
- 6次産業を早期に取り入れ、農業分野で女性も活躍できるという先輩たちの実績から、女性の若手農業経営者や、町外からの就農・移住希望者も増加した。

応募団体からのアピール・メッセージ

「日本一大きく美しく豊かな農村公園」をめざして、75団体（1,400人）の農家が連携して6次産業を通じた世羅町全体の活性化に取り組んでいます。たくさんのお客様に愛される商品づくりと皆さんとの交流は私たち農家の元気の糧になります。

特定非営利活動法人 あいあい広場

～小さいけれど、ブルーベリーと笑顔いっぱいの観光農園～



ブルーベリーに合う土づくりを行う利用者



観光農園に収穫体験に来た子どもと利用者

経緯

- 障害者の日中活動(生活介護事業)として農作業を行ってきたが、労働に見合う工賃の反映が出来ないことから、6次産業化を絡めた、特色あるものを栽培しようと考えた。
- 地域の方々と触れ合い、作業にやりがいを感じてほしいとの思いから、観光農園の開園を目指し、ブルーベリーの栽培を開始した。

取組内容

- 平成25年度よりブルーベリーを栽培。重度の障害のある方と職員が土づくりから始め、現在では約300本を育てている。
- 収穫したブルーベリーは27年度より、地域のスーパーや産直売り場、ケーキ屋やレストランへ販売しているほか、事業所内でブルーベリーを使用したジャムを作り、地域のバザーで販売。
- 観光農園を、29年度より本格的に開園。

活動の効果

- 自分たちが作業にかかわったブルーベリーを、スーパーの店頭に並べたり、ケーキ屋に卸に行くことで、少しでも社会とかかわっている実感を感じることができている。
- 28年度に試験的に観光農園を開園し、地域の方と実際に接しながら、自分たちの栽培したブルーベリーを販売することで、より一層、喜びを感じることができた。
- 開園した観光農園は、地域のメディアに取り上げられ、親子連れや地域の方が多数来園され、障害のある人と接することを通じて理解を深める機会となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

障害のある人たちが、心を込めて育てた、無農薬でとても美味しいブルーベリーです。みんな、自分の力を発揮してやりがいを感じることで、すてきな笑顔を見せてくれます。「人」が大好きな人たちの笑顔に会いに観光農園に来てください！

広島県福山市神辺町徳田1848 Tel:084-962-3452

安芸太田町ヘルスツーリズム推進協議会

～ヘルスツーリズムで再生、県内最少の町の挑戦！～



森林セラピー体験



SUP(スタンドアップパドルボート)

経緯

- 安芸太田町未来戦略会議での提言を受け、「美しい自然・景観」を活用し他地域との差別化を図るため、「健康・癒し」を町のブランドイメージとして構築することとなり、推進母体として設置。
- 県内で最初の森林セラピー基地として認定。さらに田舎体験と連携し農泊の取組を始める。

取組内容

- 森林セラピーの健康効果について大学との連携によりモニターツアーを実施。
- 自然を活かしたアクティビティなどの様々な体験メニューと組み合わせたモニターツアーを実施。平成29年度にはSUP(スタンドアップパドルボート)と農泊の取組を進める。

活動の効果

- 県内で最初の森林セラピー基地として認定されたことにより、各種メディアに取り上げられ、町のPRとともにセラピー体験者が増加。平成28年度には996人が体験。
- 大学との共同研究結果から、森林セラピーの健康保持増進効果が期待され、冬山での癒やし効果も得られたことにより、訴求力を高めることができた。
- さまざまな体験プログラムを組み合わせることにより県内企業の福利厚生の一環としての利用を期待。

応募団体からのアピール・メッセージ

安芸太田町では、森の中で五感を活用する森林セラピーと安芸太田町ならではの田舎体験メニューを組み合わせたプログラムを構築し、メンタルヘルス対策の「一次予防」への取組としての活用を目指す。

いしはら

石原集落協定組合

～定年後はプロボラ人生で集落活動の先導役～



毎年恒例の子ども会行事 ひまわりの種播き体験



女性参加の突破口を期待される石原ひまわり会

経緯

○U・Iターンしたくなる集落を目指し、持続可能な農業生産体制を構築するため、小集落の課題解決は小集落の枠を越えた連携が必要と考え、第2期中山間地域等直接支払事業の活用を契機に3集落の協定組合を1つに組織化。

取組内容

- 子ども会と連携し、転作水田にひまわりを作付し、毎年ひまわりイベントを開催。
- 農地法面の草刈り作業の軽減を図るため、センチピート芝を法面に植栽。
- 鳥獣被害防止で、集落の山際に防護柵を設置、7つの集落が役割分担をし維持管理。女性たちのひまわり会も立ち上げ鳥獣対策に一役。

活動の効果

- 今年で24回目を迎えたひまわりイベントでは、住民100人以上が交流スタッフとして参加。都市農村交流事業の一大イベントとして定着。なかでも種まきは子どもの貴重な故郷体験行事となっている。
- 鳥獣害対策は農業者、非農業者一体の共同活動として実施され、多様な活動実施の礎となっている。
- 「石原ひまわり会」は、内外からの活動報告や講演依頼が多くなり女性参画による農村作りの重要さを身近に感じられるようになった。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域活性化の4種人材「よそ者・若者・情熱者(ばか者)・女性」がほど良く揃っています。平日は、プロボラ人材が臨機応変に声を掛け合い、集まり、動くようにしています。



かわにし

川西自治連合会

～自治の力で創った地域の生活拠点「郷の駅」～



2017.7.21 郷の駅オープニングテープカット



郷の駅オープニング「川西の唄」唄とダンス

経緯

- 人口減少、高齢化率も49%超の過疎地区となり、主要施設が消え、地元住民の生活に支障が生じた。
- 全住民アンケート調査による地域づくりビジョンを作成。都市農村交流拠点と地域生活拠点づくりを2大プロジェクトとして魅力ある地域づくりの実現へ活動を開始。

取組内容

- グリーンツーリズム、廃校活用の運営のためNPO法人を設立。近隣の観光農園での農業体験と連携した都市農村交流拠点を形成し、田舎の魅力を発信。
- 住民の幅広い参画とアイデア募集に取り組み、地域密着型の地域生活拠点「郷の駅」構想実現のため、住民出資の地域運営会社「(株)川西郷の駅」を設立。

活動の効果

- 住民の生活を支える地域拠点として、農村コンビニ、産直市、食品加工販売、軽食・交流スペースの複合施設「川西郷の駅『いつわの里』」を建設し、平成29年7月21日にオープン。地元住民の喜びの声とともに、地域の魅力と賑わいを生み創出した。
- さまざまな地域魅力アップ活動により、I・J・Uターン者が増加し、地元小学校児童36人中26人がI・Uターンで小学校の維持及び地域の発展にも貢献。
- 市内で同様の過疎の課題を抱える自治会でも、新しい地域づくりの取組として注目。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域魅力アップ活動により、この10年間でビジョンに掲げた多くの内容が実現。今後は、農家レストラン、福祉防災の「相愛センター」、HPやSNS等の情報発信、ICTを活用した地域交通体系を整備したい。

竹原ご当地グルメ推進協議会

～ご当地グルメで竹原の「うまい！」をPR！～



竹原ご当地グルメ



とっとりバーガーフェスタ

経緯

- 市内の飲食店と市が協力し、平成23年に竹原タケノコ料理協議会を設立し、竹原産タケノコの商品開発・PR等活動を開始。
- 平成26年に現名称へ改称し、竹原産農水産物の振興、地域固有の食文化の確立・ブランド化を目指し、ご当地グルメの開発やイベント等に参加。

取組内容

- 竹原ご当地グルメとして商品開発した「竹原たけめし」、「竹原いもタコカレー」、「竹原バーガー」を市内の飲食店へ提供。
- 「竹原バーガー」PRのため、平成27年から3年連続で「とっとりバーガーフェスタ」へ出展。平成27年は第4位に入賞。
- 各ご当地グルメ節目記念イベント、バーガーフェスタへの出場権をかけた竹原バーガーの売上対決等の各種イベントを開催。

活動の効果

- 計約5万食提供している竹原ご当地グルメの材料として、竹原名産である「小吹地区のたけのこ(3.3トン)」、「吉名地区のばれいしょ(1.9トン)」、「峠下牛(0.7トン)」、「地元産米(7.4トン)」、「地元産タコ(2.2トン)」を利用しており、竹原市の農水産物振興に貢献している。
- 平成28年10月のとっとりバーガーフェスタでは、1,280個のバーガーを販売した。

応募団体からのアピール・メッセージ

竹原には、過去に生産量・kg単価ともに日本一を記録した「吉名地区のばれいしょ」や、農林水産大臣賞を受賞した「峠下牛」等、「うまい！」食材・グルメが盛りだくさんです。ぜひ、食べに来てください！

NPO法人いきいき農業応援し隊

～「生活者」こそが農業振興の主役です～



農村まるごと観光化事業:バスツアー



農業ボラバイト:レモン収穫作業

経緯

- ひろしま女性大学の「いきいき講座」を受講し、「生活者の立場から農業を知る」をテーマに勉強。消費者こそが農業振興に関わるべきだと自覚。
- 「農業を知ることは食そのものを知ること。農業を支援することは私たちの命を守ること」をスローガンに、平成18年10月に消費者団体「いきいき農業応援し隊」を設立。

取組内容

- 農山村の農家と協力してバスツアーを実施。「農村の文化や歴史」を味わう。農作業で農家を支援し、顔が見える形で農作物を購入。消費者と生産者を繋ぐイベント。
- 農作業を手伝うことを通して消費者と生産者の相互理解を深め、相互扶助を目的とした「農業ボラバイト」を実施。
- 「土作りから収穫まで」の一連の農作業体験の要望に答え「いきいき農園」を運営。

活動の効果

- 昼食時に行われる意見交換で、農産物に対して消費者が求める要望を農家が直接知ることができ、農家経営の一助になっている。
- 高齢化と過疎化により農繁期の労働力が不足する農村と、農作物の生産現場を見てみたい消費者とのニーズがマッチング。交流の場を創出した「農業ボラバイト」。
- 「いきいき農園」では、秋に「芋煮会」を開催し同時に産直市も開催。買ってもらう嬉しさと同時に、農作業の苦労に見合った適正価格を考える場となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「農業を知りたい」「田舎を知りたい」という若い人たちからシニア層の幅広い層が、いつでも気軽に参加でき、消費者と生産者が「いきいきした顔」で交流できる、そんな活動を無理なく継続できるよう、今後も頑張っていきます。

里山あーと村運営協議会

～休日には里山暮らし～



森と木工の日 開催



森のジャズライブ17周年

経緯

- 阿戸町にある市有林と農林・自然・歴史・生活文化などの資源を活用して、里山を再生したい。
- 市民に豊かな里山体験の場を提供することにより阿戸町の地域づくりにつなげたい。

取組内容

- 市民に豊かな里山体験の場を提供。
 - ・農林業体験講座の開催
 - ・田舎そば打ち体験
 - ・本格石窯でピザづくり
- 里山を再生する。
 - ・大島桜の植栽
 - ・せせらぎビオトープの整備
- 阿戸町の地域づくりにつなげる。
 - ・とんがり食彩交流館
 - ・こもれび工房

活動の効果

- 里山プロジェクトなどにより、市民に豊かな里山体験の場を提供することができた。
- 大島桜の植栽やビオトープの整備などにより里山再生を行った。
- 地元が、あーと村運営協議会と協働することで、阿戸町の産品を活用した6次産業化にも着手している。

応募団体からのアピール・メッセージ

里山あーと村運営協議会は、地域住民、参加者、行政が協働で運営し、市民が主体になることで、自主的な活動を行っており、誰もが主役になれる場となっています。

みはら

三原市漁業協同組合

～タコなら三原！三原ならタコ！「三原のやっさタコ」は宇宙一のタコ！～



タコ壺体験学習風景



マツダスタジアムでのタコ天販売

経 緯

○三原のタコ漁は、江戸時代より代々世襲制で漁場を大切に守りながら、伝統の技を駆使し、必要以上に取り過ぎないことに配慮した漁が営まれてきた伝統あるタコ漁だが、全国的な認知度が低いことから、市が代表特産物として振興していく方針を出し、タコ漁体験やPR等の取組を開始。

取組内容

- 平成24年にオープンした道の駅「みはら神明の里」内に、タコ天等加工品の販売コーナーを設置。平成26年に市の特産品として「三原やっさタコ」の商標権を取得。
- 伝統あるタコ漁の認知度を高めるための水産教室やタコ漁体験の開催、学校給食の食材として提供。
- 平成28年に「三原市地域水産業再生委員会」を設置し、地産地消・6次産業化を推進。

活動の効果

- 県外各地よりタコの注文が来ており、「三原やっさタコ」の知名度が浸透してきている。
- 市内の学校給食の依頼や、加工施設の見学依頼を受けるようになり、“食”と“漁業”の距離が近くなるとともに、県外の漁協との交流・情報交換が行えるようになった。
- タコ以外の魚種についても販売金額が増加しており、漁協組合員の所得向上に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

三原のやっさタコは足が太くて短くうま味がぎゅっとつまって美味しいよう～♪
一度食べてみんさい♪

おおさきかみじま

大崎上島海生体験交流協議会

～瀬戸内海に浮かぶ大崎上島 まるごと島体験～



櫓伝馬体験



農業体験

経緯

○高齢化・過疎化問題の対応として、体験交流型観光を推進し、都市の学生と島の住民が交流を深め、地域の活性化や経済効果に貢献することを目指し協議会を設立。

取組内容

- 島民と都市の学生の人生に大きく影響を与える出会いを願い、平成25年度より民泊を利用した体験型修学旅行を誘致。28年度までに39校6,324人の中高校生が修学旅行で大崎上島町へ来島。
- 第二の故郷として再び来島するきっかけづくりとして、「心豊かな田舎暮らし」を体験してもらうための伝統文化、漁業、農業、アウトドア、伝統工芸ものづくりなど、まるごと島体験メニューを提供。

活動の効果

- 大崎上島町にとって、修学旅行生による来島者数が増えることは観光振興だけでなく、地産地消・民泊体験料・お土産代による経済効果が得られた。
- 修学旅行生に田舎暮らしを体験してもらうことで、島民が大崎上島町の良さを再確認することができ、また、都会の子が島民との交流や自然に囲まれた田舎生活体験を通じて、心の豊かさを育み、人とのかけがえの大切さを実感し、島への移住者も増え、地域の連帯感や活性化につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

島の生活をまるごとそのまま体験し、島のあたたかい人柄にぜひふれあってみてください。

福山市土地改良区

～水と土にふれあい、農業と人との交流～



学校農園で地域住民と子どもが農業体験



農業用水路でスイゲンゼニタナゴの生息調査

経緯

- 水土里ネット福山の「農業用水・施設管理」の役割を広く市民に周知するため、水土里レポーターとして、子どもたちの農業体験や地域行事の取材を通じ、子どもの農業に対する眼差しをメッセージとして発信し、食と農業用水への関心を高める取組を開始。

取組内容

- 組合員が運営する学校農園で、子ども達が農業体験で収穫した米や野菜等を給食食材として供給。
- 生産量全国一位の「くわい」を小学校の校庭で栽培・収穫。レシピも考案し、調理実習や地域と連携した出前授業を実施。
- 水路への転落防止の呼掛け、農業用水路に生息する国内希少野生動植物指定の「スイゲンゼニタナゴ」の保全。

活動の効果

- 学校農園運営を通じた子ども達とのふれあいにより、生産者の営農意欲が高まり、生き生きと農業体験等行事に取り組む姿が他の地域の組合員にも波及し、地域の活性化が図られ、土地改良施設が地域の財産であるとの認識を深めることができている。
- 出前授業を通じ、子ども達が「くわい」の歴史・栽培方法、出荷や6次産業化について学び、栽培・収穫から調理まで経験することにより、ふるさとを誇りに思う気持ちが芽生えている。

応募団体からのアピール・メッセージ

都市農業地域の社会的・公益的な機能の持続と地域特産農産物のブランド力向上と持続的な振興をめざして、21世紀土地改良区創造運動に取り組んでいます。

なるたき

鳴滝集落活動組織

～陰陽分水の郷里・鳴滝の挑戦～



大花田植え



「きさらぎ」女性会の活動

経緯

- 地域住民の手によって名勝鳴滝の復活と、地域に継承されてきた花田植えを後継者に伝えてきた。
- 地域の景観や伝統への関心が高まる一方で、農地や施設の維持管理、高齢化による担い手不足などの問題に対し、活動をととして地域資源と農業を守り活性化を図りたいと考えたため。

取組内容

- 鳥獣害対策で里山林界に鉄製柵の設置、ほ場に電気柵や、箱ワナの設置等、地域全体で取組。
- 国無形文化財指定の「花田植え」を毎年5月に開催し、女性会グループが、地元で採れた食材で餅やおこわ等を作り、都市観光客と食を通じたふれあいを行う。
- 6次産業化で、転作田や里山遊休地に山葡萄等を栽培し、地元でワインを醸造(果実酒特区)し、他の加工品と併せて販売。

活動の効果

- 「花田植え」は田園絵巻さながらの光景で年々見物客でにぎわい、女性会による食の提供にも活気が生まれてきた。
- 食を通じたふれあい交流を楽しみに、訪れる都市観光客も年々増加しており、物産品の販売に取り組む機運が高まっている。
- 地域環境の保全や農地維持の活動による、園芸作物の栽培で6次産業化を図ったことで「魅力ある地域」を再確認している。

応募団体からのアピール・メッセージ

伝統行事「花田植え」など、地域の魅力を幅広く発信し、訪れた人の「もてなし」に繋がる食の提供や地域特産品を工夫したい。中でもワインは町の特産品として認識され、収穫や醸造作業の手伝いなど地域の活性化を目指しています。

農事組合法人よしやま

～市中心部から30分に理想の田舎があった！～



農業体験教室



ミニ道の駅 Oishi吉山内野菜直売

経緯

- 平成17年に完了した農業基盤整備事業をきっかけに、法人の前身となる営農組合を設立。
- 地域内での話し合いの中で、農地と地域を守ることを主眼に経営の規模拡大や大型機械による生産性の向上を目指して平成17年に法人を設立。

取組内容

- 農業体験教室
- 地元企業との連携による、経営の安定化及び、地区の活性化
 - ・メーカーとの契約栽培
 - ・ミニ道の駅(Oishi吉山)の誘致
 - ・地区内レストランとの連携
- 地区内での積極的雇用
 - ・植え付け、収穫期に年間延べ2,000人のアルバイトを雇用

活動の効果

- 農業体験教室では、地区の魅力を参加者に伝えることにより、ファンになった都市住民が米や野菜の顧客となり、農作物の有利販売に結びついている。
- 地元企業と積極的に連携し、販路を確保することで経営の安定化を進めている。
- ミニ道の駅内では野菜や米の販売の他、併設するレストランへの食材提供も行っている。吉山地区を訪れる都市住民が増加し、地区の活性化に貢献している。
- 地区内での雇用を積極的に行っており、地域の人達が農作業や話し合いの場を通じて交流が活発化したことで、地域においても、声をかけあい、支え合える「理想の田舎」となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

広島市内から車で30分の吉山地区。
産直市やレストランに、おいしい吉山があふれています。
皆さんに笑顔になっていただける「田舎」がここにありますので、ぜひお越し下さい。

広島県広島市安佐南区沼田町吉山1242 Tel:082-839-3450

えだじま

たけすみこうぼう

(公社)江田島市シルバー人材センター 竹炭工房おおがき

～竹害を防いで、竹を有効活用、地域の活性化～



竹炭・竹酢液の商品群



民泊修学旅行生の体験教室

経緯

- 耕作放棄地の増加や高齢化に伴い繁殖力の旺盛な竹の繁殖による地力の弱体化や有害鳥獣の繁殖を防止するため、竹炭生産設備を建設。
- 竹を伐採し、高品質の竹炭や竹酢液を生産し、土産品や実用品に加工、販売。雇用の場としても活用。

取組内容

- 「瀬戸内しまのわ2014」をきっかけに2014年から体験教室を実施。地元小中高校生や民泊修学旅行生、海外からの来島者も参加。
- 継続的な顧客開拓のため市場を調査分析。竹炭パウダー市場への高品質竹炭の生産。
- 地元の耕作放棄地や休耕田の再利用を図る農業法人と連携し、土壤改良や病害虫防除などに粒竹炭や竹酢液の用途を拡大。

活動の効果

- マスコミにも数回取り上げられ地域住民や来島者への知名度が向上。体験教室や見学会などへの参加者が増加。
- 竹炭を作るときに発生する余熱を活用し、地元の温泉源泉を有効利用した新商品開発(温泉塩と塩応用品)には、県立大学の学生などの参加や商工会の支援により商品化が加速。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後は、竹炭作りや竹細工の技術レベルが向上することで、販売拡大を図り雇用を促進、他団体との連携により耕作放棄地の再生利用、体験型観光への寄与を増大したい。

福山市中央地区 食生活改善推進員 協議会

～ワクワク クッキング～



ワクワククッキングの様子



完成したお弁当

経緯

○2008年(平成20年)当時、地域の学校では「健康管理」「生きる力の育成」などに課題があったため、地域の人で学校をサポートする方法の一つとして、食生活改善推進員と民生委員と一緒に家庭科の授業に入ることになった。

取組内容

- 中学1、2年生の保健委員会と家庭科部の希望者を対象とした、お弁当の料理教室「ワクワククッキング」を毎年開催(今年度で10年目)。
- 保健委員と家庭科部員自らが、献立を作成し、お弁当メニューを決定。今年度は、鶏のひき肉やシソの葉を使った「しそバーグ」、人参やピーマンをきな粉や蜂蜜で和えた「栄養野菜の濃厚きな粉和え」を考案。

活動の効果

- 調理実習を通して、自分で作る楽しさや手作りのおいしさを体験することができ、同時に食事のマナー、バランスのとれた食事の大切さを学ぶ機会になり、学生時代からの「食育」の啓発に繋がっている。
- 10年間の活動の中で、生徒との関わりが深くなり、地域の中で学校とのコミュニケーションを図る機会となった。

応募団体からのアピール・メッセージ

福山市中央地区食生活改善推進員さんは、笑い声がたえないおらかな性格を武器に、パワーある声と行動力で、「食」を通じて地域づくりの一端を担っています。

よしわ
吉和げんき村

～吉和を元気に！ずっと幸せに住み続けられるまちへ～



吉和げんき村のメンバー



イベントへ参加・フォトコンテスト・スタンプラリー

経緯

- 地域在住の消防団や神楽団の間で、地域の高齢化への危機感を感じ、若者が主体となり地域を元気にしていきたいという思いが募る。
- 平成27年11月頃から地域の現状の把握や、これまでの地域づくりの変遷等の振り返りを行い始め、平成28年3月に吉和げんき村を設立。

取組内容

- 吉和地域の新たな魅力を発見・発信することを目的に吉和フォトコンテストを季節毎に開催。応募作品は宣伝広告や地域PRに活用。
- 吉和・佐伯地域の特産物を知ってもらい、地域への来訪者が増え、魅力を感じてもらうことを目的に吉和・佐伯カレースタンプラリーを実施。

活動の効果

- 地域を元気にするにはどうすればよいか、意欲的に考える若者が増えた。
- 地域活動に積極的に協力することで、地元企業からもイベント等の協力要請が求められるようになった。
- メンバーの子どもが刺激を受けスタンプラリーを企画するなど世代を超えて地域に対する愛着が芽生え始め、観光客の増加や吉和・佐伯地域の特産品PRにつなげた。

応募団体からのアピール・メッセージ

団体のことを知ってもらうために引き続き地域イベントへの出店や地域活動を行いながら、吉和地域のファンを増やし、将来的には定住・移住に向けた取組もしていきたい。

のみ
農事組合法人 シバザクラの里乃美

～シバザクラ咲き誇る乃美の里づくり～



開花したシバザクラ



枝豆オーナーの播種

経緯

- 平成21年度に経営体育成基盤整備事業をきっかけに、乃美土地改良区及び農事組合法人シバザクラの里乃美を設立。
- 三位一体となって、乃美地域の農業と農村環境の振興及び発展に取り組む。

取組内容

- 多面的機能支払や中山間地域等直接支払制度を活用し、草刈り等の保全活動や農村景観を形成として農地や法面にシバザクラを植栽。
- エコファーマーの認定を受け、安全安心で高付加価値な農産物の栽培や耕畜連携に取り組み、特別栽培米「乃美シバザクラ米」を販売。
- 枝豆オーナー制の取組による地域住民との交流。

活動の効果

- 乃美地域でのシバザクラ植栽技術は、集落単位での景観形成のためにシバザクラを植栽する市単独の補助事業創設に繋がり、市内各地でシバザクラの植栽が広がった。
- シバザクラが咲き誇る季節には、県内外から多くの人が訪れるなど、都市住民との交流により、地域が活性化してきている。
- インターネットを通じたブランド米の販売により、収益性のアップにつながっている。
- 大豆を春に自ら播種、収穫(枝豆・黒豆)するオーナー制が好評である。

応募団体からのアピール・メッセージ

現在は「シバザクラ祭り」を行っていませんが、シーズンには多くの市民が鑑賞に來られており、引続き交流の場として継承したいと思っています。

にしたぐち

農事組合法人 ファーム西田口

～地域の農地をみんなで守ろう～



機械保有の合理化による生産コストの低減



女性部を中心としたアスパラガスの栽培

経緯

- 地域のみんなで農地を守るため、平成18年度経営体育成基盤整備事業に着手し、平成20年4月農事組合法人ファーム西田口を設立。
- 平成22年、法人内に女性部を設立。

取組内容

- 基盤整備区域内の地権者が整備事業に全員参加(100%)、地権者が全員法人加入(100%)、基盤整備した農地を法人に全て利用権設定(100%)を実施(300%の取組)。
- 法人女性部を中心にアスパラガス、白ネギ(県内最大の生産規模)の栽培・収穫を実施。
- アスパラガス、白ネギは市場に出荷するほか市内小中学校の給食用食材として提供。

活動の効果

- 都市近郊という条件を活かし、アスパラガス、白ネギは地元スーパーとの契約販売。出荷作業の大幅な軽減により収益率も向上し、法人経営の安定化に寄与。
- アスパラガス、白ネギの導入など経営の多角化のメリットや、高度化等先進的な取り組みを研修会で発表するなど、県内農業の発展や活性化に貢献。
- 全国各地から視察が増えた。

応募団体からのアピール・メッセージ

これからも法人の仲間や地域の方々とともに、法人経営におけるアスパラガス、白ネギ栽培の取組を通じて地域貢献をしていきたいと思ひます。

自治組織「共和の郷・おだ」

～誇りの持てる住み良い、和やかな郷づくりをめざす～



コメ粉パン工房「パン＆米夢」のスタッフ



小学生への盆踊り指導

経緯

- 少子・高齢化、都市部への人口流出により、農業の担い手不足・耕作放棄地が増加。更に市との合併に伴い、学校、診療所等の統廃合で、集落存続の危機に直面。
- 地域住民で話し合い、安心して暮らせる地域を自分たちの手で作り、守るための自治組織を設立。

取組内容

- 地域の伝統文化である小田神楽の継承のため、神楽保存会と連携し、男子児童に「子ども神楽」を、女子児童に「巫女の舞」を習得させ、毎年の夏祭りで上演。
- 地元の女性の活力で、地元産の米を活用した米粉パンの商品開発や製造・販売。
- 自治組織内各部会が連携し、田植祭りや運動会等を地域住民が一体となって取り組む。

活動の効果

- 「共和の郷・おだ」は、小さな模擬役場の機能を果たしており、地域住民の合意形成を基本に活動することで、結束力が強まり、地域の活性化や文化・伝統を守るという意識が高まるとともに、農事組合法人「ファーム・おだ」による営農活動や6次産業化の取組により、農地保全・所得向上・雇用創出に寄与。
- Uターン・Iターンによる定住者も平成22年から増えており、地域創生の優良モデルとして平成28年度は全国から80地区1,100名の視察があり注目を集めている。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域の基本目票「誇りの持てる住み良い、和やかな郷づくりをめざす」を支える7本の柱と77項目の地域ビジョン「未来創生図」を設定。ビジョンの実現に向け取り組んでいます。

住民自治協議会 福に富む郷 竹仁

～竹仁の郷のえんがわ マルシェ～



拠点広場の「郷のえんがわ」完成予定図



マルシェで地元の手工芸品や薬草茶などを販売

経緯

- 少子化・後継者不足、古民家・里山ブームにより訪問者は多いものの移住・定住までには至っていない状況。
- 竹仁地区として「農業従事人口1%向上」という目標を掲げ、地域の魅力を発信するとともに、地域内外から人を呼び込むためのイベントやマルシェ等を開催する交流拠点の建設を開始。

取組内容

- 40本の桜と季節の花の球根(4種2,500球)を植栽するとともに、産直市場や料理が楽しめる「しゃくなげ館」周辺に、地域内外の人が集える拠点(アースバックハウス)を建設。
- 地元の特産物を中心に販売するマルシェの開催。
- 農泊事業の採択を受け、古民家と「えんがわパーク」を竹仁の新拠点と位置付け、事業を展開。

活動の効果

- 空き家対策で不動産屋を通したりせず、住民自治協議会が窓口になり、売主と移住希望者との橋渡しを無償で行ったことで、平成28年の移住者は10世帯16名となった。
- 移住希望者にイベントの案内を送り、何度も事前に地域と関わりを持たせることで「田舎暮らし」を単なる憧れのものとし、地域に馴染める移住者の定住化が図れるようになった。
- 平成29年に行われている広島県の「さとやま未来博」の「こころざし応援」に応募した地域外の団体とも交流する場が増え、インターネットでの情報拡散の機会が各段に増えた。

応募団体からのアピール・メッセージ

29年度から始動している農泊事業と平成30年3月18日に完成お披露目会を行う“郷のえんがわ”とアースバックハウスのある「えんがわパーク」でのイベント開催で、竹仁と都市部の交流により力を入れ、引き続き東広島市内の中山間地の活性化をリードしていく。

広島県東広島市福富町下竹仁501-11 Tel:082-435-2301



「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」
(第4回選定)応募団体取組事例集(広島県版)

【お問い合わせ先】

中国四国農政局農村振興部農村計画課

〒700-8532 岡山県岡山市北区下石井1丁目4番1号 電話：086-224-4511

中国四国農政局広島県拠点

〒730-0012 広島県広島市中区上八丁堀6番30号 広島合同庁舎2号館6階
電話：082-228-5840
